場所　三重県多気郡明和町

面積　3.2ha



活動目的

「自然と共生し、資源が循環するモノづくり工場」を目指し、緑地での活動を通じて従業員の自然環境や資源循環への理解を深め、環境保全活動による生物多様性の向上を目的とする。

サイト概要

本サイトは三重ブラザー精機株式会社の工場敷地内にある緑地である（標高6～8m）。緑地は1948年以前より継続する森林、ハチク伐採後に形成されたアカメガシワなどを中心とした二次林、チガヤやスイバなどが生育する刈り取り草地、調整池及び池内に形成された湿地で構成されている。2016年に日本生態系協会と協働で敷地内の緑地の状況を把握し、生物多様性の向上を目的に管理方針を決定、竹林の伐採や森林内に自生するコブシの苗づくり・特定外来生物のオオキンケイギクの除草など生物多様性保全活動を促進してきた。保全活動を通じて、環境教育の場として活用するとともに、社員のレクリエーションの場として利用している。

土地利用の変遷

1948年と1960年代の国土地理院地図を確認すると、本サイトは工場建設前は水田と残置森林に覆われていたことがわかっている。1977年に第一工場、1982年に第二工場が建設された。工場建設後も、敷地の半分以上は緑地と調整池で占められており、環境活動に対する意識の高まりから緑地の森林エリアを保全活動エリアとして位置づけ、一部竹林に覆われた区域に関しては2017年に伐採を行い、そして、自然に触れ合いやすいように散策路を整備した。草地に関しては年4回程度の草刈りを継続的に行い、草地の維持に努めている。

サイト周辺の環境

本サイトは伊勢湾東大淀海岸より3km程度内陸に位置し、櫛田川（一級河川）と宮川（1級河川）の間にある水田地帯にあり、笹笛川（二級河川）と大堀川（二級河川）に挟まれた場所に位置する。周辺には社寺林や残置森林が点在する農村エリアである。

アピールポイント

本サイトは植生環境を把握した上で保全管理計画を策定していることが特徴である。調査の結果、東海圏の平地では珍しいコブシの大木が生育していることがわかり本サイトの象徴種として位置づけられている。三重ブラザー精機はプリンティング機器等の修理と再生を事業としており「自然と共生し資源が循環するモノづくり工場」を掲げ生物多様性保全と資源循環を意識した活動を積極的に行っている。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトでは生物多様性保全活動（自然観察会やサイト内から採種して育成したコブシ苗とその植樹、オオキンケイギクなどの外来種の除去など）を通じて従業員の環境教育の場として利用している。また、散策路を利用した健康増進や、レクリエーションや憩いの場としても利用している。更に、調整池においては敷地内の雨水が集積され、防災・減災として機能している。

【主な植生】

主な植生はエノキを主にアラカシなどが混交する常緑落葉混交樹林、ハチクを伐採した区画ではアカメガシワなどの先駆性落葉広葉樹林、チガヤやオオジシバリなどが生育する刈り取り草地、マルバヤナギやアゼナルコが生育する調整池の水生植物群落となっており、在来種を中心とした多様な植物種がみられる。

【確認された主な動植物など】

本サイトでは植物286種、昆虫類234種、鳥類34種、魚類６種、底生生物14種が確認されている。主な種は以下の通りである。

・植物：エノキ（*Celtis sinensis*）、ヤブツバキ（*Camellia japonica*）、ヤブコウジ（*Ardisia japonica* var. *japonica*）、カラスザンショウ（*Zanthoxylum ailanthoides* var.*ailanthoides*）、チガヤ（*Imperata cylindrica* var.*koenigii*）、アゼナルコ（*Carex dimorpholepis*）

・鳥類：コゲラ（*Dendrocopos kizuki*，成鳥）、アオジ（*Emberiza spodocephala*，成鳥）、メジロ（*Zosterops japonicus*，成鳥）、ヒバリ（*Alauda arvensis*，成鳥）、カワセミ（*Alcedo atthis*，成鳥）

・昆虫類：タマムシ（*Chrysochroa fulgidissima fulgidissima*，成体）、カラスアゲハ本土亜種（*Papilio dehaanii dehaanii*，成体）、キムネクマバチ（*Xylocopa appendiculata circumvolans*，成体）、ツマグロヒョウモン（*Argyreus hyperbius hyperbius*）、ギンヤンマ（*Anax parthenope julius*，成体）

・魚類：モツゴ（*Pseudorasbora parva*）



写真の説明：コブシの苗づくり（播種作業）



写真の説明：オオキンケイギク除去活動（草地）

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

本サイトは工場敷地内にありながら、1948年以前から継続する樹高15m程度の常緑落葉混交樹林の森林や、ハチク伐採後に形成された先駆性落葉広葉樹の二次林、一部盛土後に形成された刈り取り草地、調整池内に形成された水生植物の湿地など歴史が違った多様な環境が近接してあり、平野部の里地に特徴的な希少な生物がそれぞれの環境で確認されている。

【確認された希少種】

本サイトでは2016年に行われた現地調査と2024年に行われた生物モニタリング調査の結果、環境省レッドリスト2020及び三重県レッドデータブック2015の掲載種として、植物３種（コブシなど）、昆虫類４種が確認されている。
（調査方法_2024年度）モニタリング調査は各分類群の専門家により行った。生物種の記録は森林・二次林・草地・調整池に分け各区分ごとに記録した。また、調査当日同定が難しい種に関しては持ち帰り、図鑑・検索表の利用や有識者に追加確認した。1回の調査は1日とした。植物はサイト内を踏査し目視により確認した。昆虫類は捕虫網を用い目視による採取、スウィーピング法・ビーティング法・鳴き声の確認を行い記録した。

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
＜活動目的＞ 「自然と共生し、資源が循環するモノづくり工場」を目指し、緑地での活動を通じて従業員の自然環境や資源循環への理解を深め、環境保全活動による生物多様性の向上を目的とする。 ＜活動内容＞ 本サイトを①森林ゾーン②二次林ゾーン③草地ゾーン④調整池ゾーンに分けて価値(4)(6)の保全に貢献するよう、以下の活動を行うものとする。 ①森林ゾーン：基本的に自然の成り行きにまかせるが、竹のみ除去する。 ②二次林ゾーン：基本的に自然の成り行きにまかせるが、竹のみ除去する。 ③草地ゾーン：野草の生育環境を考慮し、これまでの年4回の刈り取り管理（５・７・９・11月）を継続する。また、重点対策外来種であるシナダレスズメガヤ・コマツヨイグサ・セイタカアワダチソウ・セイヨウタンポポに関しては刈り取り管理の効果を確認しつつ、順応的に管理リズムを運用し対策を取る事とする。特定外来生物のオオキンケイギクは定期的な除去活動を継続して行う。 ④調整池ゾーン：調整池に生息する水生昆虫や魚類の生息環境を向上させるため、条件付特定外来生物のミシシッピアカミミガメとアメリカザリガニの駆除活動を行う。また、重点対策外来種のコゴメイは伐根を検討するが、株が大きく人力による伐根が難しい場合は草刈りをおこない、株の衰退を狙う。 ＜実施体制、計画の点検・見直し＞ 実施体制は活動責任者及び外部委託者で行う。 活動計画は年に1回点検を行うものとする。	**【モニタリング対象】** （生物相調査）植物・昆虫類・鳥類及び魚類・底生生物 （鳥類）カモ類 （植物）ワレモコウ・オオキンケイギク・シナダレスズメガヤ・コマツヨイグサ・セイタカアワダチソウ・セイヨウタンポポ・コゴメイなど **【モニタリング場所】** 森林・二次林：散策路沿い及び林内 草地：全体的に踏査 調整池：中央部と水際・湿地内 **【モニタリング手法】** （生物相調査）任意調査 （鳥類）カモ類：定点写真を撮影し個体数をカウントする （植物）GPSを活用し分布範囲を記録する **【モニタリングの実施時期及び頻度】** （生物相調査）１分類群、１年間に１～３シーズン，５年に１回。 （鳥類）カモ類：毎年１回（飛来数最盛期：12月） （植物）毎年1回、ワレモコウ9月、オオキンケイギク6月など **【モニタリング実施体制】** （生物相調査）調査会社へ委託 （鳥類及び植物）活動責任者が有識者に協力いただきながら行う。 結果は生物多様性活動ミーティングを通じて関係者と共有し、保全管理方法及びモニタリング活動の点検・見直しを行う。